

平成13年(2001年)2月発行

情報ステーション



城山地区
シンボルマーク

しろやま

第14号



新世紀の成人式

21世紀初の成人式が新成人の司会で行われました。

前夜から降り始めた雪は朝になっても降りやまず、大雪の成人式となってしまいました。大雪にもめげず138名の新成人が出席。今回からは新成人が進行役を務め、新世紀にふさわしいフレッシュな成人式となりました。

司会を務めたのは、鈴木健一さんと篠原梢さん、記念品受領を水間陵太さん、誓いのことばを石井裕美恵さんが務めました。

また、式後恩師を交えて、記念撮影と懇談会がなごやかに行われました。



司会を務めた篠原梢さん(左)と鈴木健一さん

まちづくり懇談会が開催されました

平成12年10月13日に城山地区市民センターにおいて、「城山・明保地区まちづくり懇談会」が開催されました。城山地区では4人の方が、意見・要望について発言しました。以下に意見・要望と宇都宮市による回答の要旨を掲載します。(まちづくり懇談会は宇都宮市と宇都宮市自治会連合会の主催により開催)

大谷地区観光の活性化について

(総合開発推進協議会会長 小野口順久 さん)

- ◆大谷地区観光の位置づけをどのように考えているか。 ◇大谷地区の観光開発は、観光振興の主要事業として位置づけており今後も「広域的な集客も可能な観光レクリエーション地域」として整備し、積極的に地域の活性化を図っていきたくと考えている。
- ◆多気城址公園構想の取組状況はどうなっているか。 ◇多気城址公園構想については、将来の国指定・保存整備に向け、関係資料の収集・整理を進めるとともに、市民の皆様にも理解していただくために文化財めぐり等の啓発活動に努めている。
- ◆城山地区総合開発推進協議会による「大谷石の岩肌景観づくり」の支援策は。 ◇「大谷石の岩肌景観づくり」における地元の活動について、今後も支援していきたい。
- ◆廃屋の整理・撤去を実施するための市街化調整区域の特例措置を講じてほしい。 ◇廃屋の整理・撤去については、生活環境保全面や景観上にも支障をもたらしており、重要な課題と認識している。引き続きは正指導を進めるとともに、新たな方策についても庁内で検討している。
- ◆大谷市営駐車場に放置されている自動車を撤去してほしい。 ◇放置されている自動車については、所有者に対する撤去指導、警告書貼付等した上で、廃棄物認定車を撤去している。今後も管理のあり方について、地元と相談しながら検討していきたい。
- ◆大谷地区観光道路の整備をお願いしたい。 ◇立岩街道の道路整備については、本年度、元観音堂から立岩入口までの整備計画を進めるべく公函調査と測量業務を発注した。

城山西小の存続と西北地区の活性化について

(城山西小と地域振興を考える会副会長 北條 将彦 さん)

- ◆城山西小は、少人数であることを生かした特色ある取り組みがなされているが、当校の今後の存続についての考えは。 ◇児童数の適性規模の確保に向け通学区域の検討を進めていくなかで、今年度、懇談会等を設置する予定。城山西小もその中で検討されていくものと考えている。
- ◆西北部の活性化について、今後どのように考えているか。 ◇西北部の活性化については、自然環境の保全、スポーツ・レクリエーション機能の充実、観光・農林業の新興を図る地域として位置づけ、余暇活動や交流を中心とした地域の活性化に努めている。今後、バス路線の復活や後継者問題なども含めて地元の意見を聴きながら、古賀志地区の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

道路の安全確保について

(連合自治会副会長 佐藤 雄二 さん)

- ◆東武鉄道敷地跡付近は変則十字路で事故も多く危険。また大雨で水が溢れる。 ◇県で宇都宮鹿沼線の改良計画が進められており、用地買収に着手している。雨水対策等については、県と協議・要望していく。
- ◆立岩通りの拡幅延長工事はいつ計画しているか。 ◇立岩街道のバス折返所東への延長計画については、整備方法を検討。また、観光バスが誤って進入しないよう立看板を早速設置する。
- ◆天神坂が逆勾配となっているため通学路としても危険のため、改修してほしい。 ◇天神坂については、道路の勾配・路側帯の改良を行う。また、カーブミラー、交通標識の設置をしていく。

◆田野十字路は通学路として危険のため、安全措置をとってほしい。

◇田野十字路については、県において、交差点改良として隅切りや歩道の整備等の整備を進めている。本市としても、地元の皆様のご協力をお願いしたい。また、ドライバーに対し啓発看板を設置していきたい。

射撃場跡地の有効利用について

(連合自治会副会長 福永 隆さん)

◆射撃場跡地について緑地公園化を要望。ふれあいのある小さなオアシスとして実感できる空間を整備してほしい。

◇射撃場跡地は、現在、国有地として財務省の管理となっているので、自然環境の保全について、国などの関係機関に要望していきたい。また緑地公園化については、市域全体の公園整備を進める中で、整備の必要性や規模などを調査研究していきたい。

◆非常時の広域避難場所及び食糧備蓄施設の設置(地下施設)もお願いしたい。

◇射撃場跡地への広域避難場所及び食料備蓄施設の設置要望については、当地区は、比較的空地の多い地域となっているので、広域避難場所を指定していない。また、「防災備蓄倉庫」の整備予定はないが、自主防災組織の育成のため、防災資器材の補助制度を設ける等支援に力をいれている。



11年度から2年がかりで、市内37地区を15ブロックに分けて実施されてきた「まちづくり懇談会」は一巡目を終え、二巡目にはいります。市では、二巡目は回数を20回に増やすことを検討しています。

市民主体のまちづくり「市民都市の創造」の主役は地域のみなさんです。城山地区での2回目の懇談会の日程は今のところ未定ですが、次回は是非参加してみませんか!!

まちづくり一回知識

Q 地方分権ってなに？

A 個性豊かな、魅力あふれるまちづくりを進め、より暮らしやすい地域社会を築いていくためには、自分たちが住んでいる地域のことは、自分たちで決定し、その責任も自分たちが負うという行政システムを築いていくことが重要です。

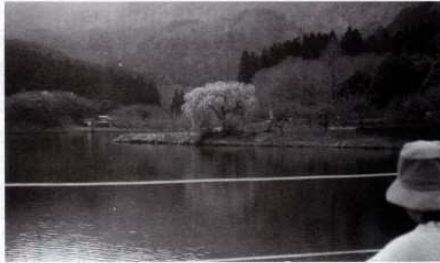
つまり、国と地方の役割を見直して、国に集中している権限や財源を住民の身近な市や県に移し、住民の皆さんと自治体が協力して、地域のことは地域で決められるようにすることを「地方分権」といいます。

Q なぜ地方分権が必要なの？

A 中央集権型行政は、全国画一の統一性と公平を重視してきましたが、過度の集中により、地方の資源や活力を奪う形となりました。

新たな時代の課題に的確に対応するためには、地方分権を推進して、地域の実情やニーズに適った個性的で多様な行政を展開していくことが必要なのです。

投稿コーナー



赤川ダム

西の宮町

水谷 郷

(七十六才)

古賀志山の麓に赤川ダムがあります。ダムを一周すると遊歩道は歩きやすく約二十分で一回りできます。こぢんまりとした美しい森林公園です。

春は、湖の東岸にある形の美しい桜の大木が、まるでピンクの花笠を開いたように艶やかな姿を湖面に映

します。秋は、西の岸に楓の真つ赤な紅葉や、メタセコイヤの落ち着いたセピヤ色の装いが見られます。

昨年早いころから、このダムに置き去りにされたらしい一羽の鴛鳥と白いアヒルと鴨が住みついています。大きな鴛鳥は、まるで、ここの主のように岸に立つて湖面を見下ろしているし、アヒルと鴨は、とても仲が良く、いつも連れ立っています。いと泳ぎ回っています。

寒くなって、沢山の鴨がどこからかやってきました。でも、この二羽のアヒルと鴨は私達が先輩よ、と言わんばかりにびったり寄り添って、そうぞうしい鴨の群れの中をかき分けて泳いでいます。ダムの堤防の上から、鴨の群れに「おーい、お前さんたちや、どこから来たンケー」と大



きな声をかけると、「ぎや、ぎや、ぎや」のだみ声が返ってきました。人影は少なく、周辺はシーンと静まり返って鏡のような湖面に古賀志山が影を映しています。初冬の澄んだ空を仰いで冷たい空気を胸一杯に吸うと、生き返ったような気になります。身近にあるおすすめめ散歩コースです。

短歌

田野町 杉浦金吉(八〇歳)

横文字の多きに惑う古きわれ

孫は笑顔で語りくれ

さんきゅうと幼き孫のよろこびし

旅のみやげを祖母に告げゆく

蜜蜂の庭に飛びきし木瓜の木を

巡り素早く花の舞ふ

“まちづくりを考える集い”を開催します

宇都宮ってどんな“まち”

■日時 平成13年3月11日(日)午後1時～

■会場 城山地区市民センター

■主催 城山公民館

■パネラー

栃木放送営業部長・CRTアナウンススクール校長 小田島 建夫氏

フランス料理「オーベルジュ」シェフ 音羽 和紀氏

日本家庭園芸普及協会認定グリーンアドバイザー 菊池 真知子氏

■定員 60名 ※入場無料

■申込方法 公民館窓口又は、公民館へお電話でお申込み下さい。定員になり次第締め切りといたします。

TEL 652-4794



編集・発行

城山地区市民センター

〒321-0345 宇都宮市大谷町1059番地5

電話 028-652-4794 FAX 028-652-5570